

7 SHIP (Social Hub Information Partners)

今年度は在学生向け講座として「SIA (Social Innovation Academy) (※)」を2度開催した。

6月に開催した vol.6 は、言葉をテーマに開催した昨年度3月開催の講座を受け継ぐ形で、言葉の持つ発信力、コミュニケーション力の向上に視点を置いた企画だった。二つの講座を連続して受講していただければ、参加学生自身が学んだことを活用して発信することで、影響の大きさを実感できる企画になったのではないだろうか。参加学生により良い講座を提供しただけでなく、企画した学生が回を重ねるごとに培ってきたと思われる企画力の成長を感じた講座であった。

また3月にはプログラミング講座を vol.7 として開催した。SIA としては初の2日間連続の講座であった。プログラミングの基礎を学ぶ絶好の企画として参加学生には好評であった。企画の狙い通りに2日間連続して受講した参加者は多くはなかったが、SIA 開催に向けた引き出しが一つ増えたのではないかと感じる。

SHIP を生み出したメンバーがこの春卒業した。卒業式を直後に控えた vol.7 は SHIP の3年生メンバーとともに、SHIP の活動に共鳴した他のセクションの学生メンバーの協力により、開催することができた。

これからの活動を考えた時、現メンバーの持つノウハウをこれから活動に加わるメンバーとともに伝承できるのか、引続き見守っていきたい。

(職員 波多野洋行)

※SIA とは…

Social Innovation Academy の略。SHIP の活動の一つとして、学外からゲストをお呼びして講演会などを企画・運営している。

●2016年度「SHIP」の主な活動

日にち	内容 (参加人数)
6/24 (金)	SIA vol.6 「90分で学ぶ! 伝える力」 (19名) ※伝える技術について企業や学生に幅広く講演しているプロフェッショナルをゲストに迎え、伝える力を学ぶ 〔講師〕 西岡佐知子氏 株式会社プラスナコミュニケーションズ 代表
3/6 (月)・3/7 (火)	SIA vol.7 「3時間で学べるゲームアプリ開発! ~私でもできるプログラミング~」 (両日合わせ 15名) ※プログラミングやゲームアプリ開発に興味のある学生を対象にした、第一歩を踏み出せるイベント 〔講師〕 齋藤皓太氏 En-courage Geek salon

私たち SHIP は明治学院大学の活性化を目的に、イベントの企画・運営をする団体である。私たちは、アクティブな明学生が増えることが明治学院大学の活性化につながると考えている。私たちの考える「アクティブな明学生」とは、学内外でさまざまな活動に取り組み、面白い生き方をしている明学生を意味する。そのような明学生を増やすためにはどうすればよいか。そこで、私たちは社会と明学生を繋ぐことが重要だと考えた。明学生が社会と繋がる場 (HUB) として、イベントを作る。そのため活動内容は主に、社会の第一線で活躍されている方をゲストに招いた講演会やワークショップなどイベントの企

画・運営である。このイベントをきっかけに明学生の興味関心が広がり、アクティブな学生生活を送っていただけたらと思っている。

私たち SHIP はイベントを作る際に大事にしていることがある。それはバタフライエフェクトである。バタフライエフェクトとは、蝶の小さな羽ばたきがめぐりめぐって竜巻を引き起こすほどの大きな影響を及ぼすという理論。SHIP 自体は学内の小さな活動だ。参加した明学生がイベントで触発され、一歩踏み出したとき、それはめぐりめぐって明学生に届くだろう。そう思って日々活動している。

(学生メンバー 法学部政治学科)

◇SIA vol.6 「90分で学ぶ！伝える力」

目的	人の前で話すこと、人に自分の言葉で伝えることを磨くための方法を知る
日時、場所	2016年6月24日(金) 15:00~16:40、白金キャンパス 1302 教室
参加人数	19名

実施概要

私たちは日々人とコミュニケーションをとりながら生活している。そのなかでもとりわけ重要なのが自己表現である。新たな人と繋がる時、自分を上手く相手に伝えることがその後の関係を築くなかでも重要となる。しかし、実際には人前で自分の意見を伝えることに対して苦手意識があり、自信を持って喋ることのできない学生が多いのではないかと。前回の SIA では言葉の持つ力に着目した講演をおこなった。そこで今回は、それをいかに伝えるかという点でコミュニケーション力の上達を目標とした講演会をおこなった。伝える技術の向上を目指しているため、プレゼンテーション能力も向上し、さらには、授業内での発言回数が増えるなど、明学全体の活性化に繋がると考えている。

感想・活動を通して得た学び

今回は、伝える力を磨くことはもちろん、その磨き方を知ることをテーマとして講演会を企画した。なかでも、大学生活のあらゆる場面で使うことになるプレゼンテーションをツールとして、企画をおこなった。講演会は、前半に講義形式で伝え方のコツをお話いただき、後半は参加者が班ごとでおこなったプレゼンテーションを登壇者にお聞きいただいたうえで、その良し悪しを実際にフィードバックしていただく、という形式をとった。参加学生からは、「プレゼンテーションの技術を教えてもらえる授業は今までになく、勉強になった」という声や、「プレゼンテーションのコツを、ポイントを絞って聞くことができてよかった」といった声をいただいた。

今後に向けて

私たちは、SHIP の掲げる活動目的の「明治学院大学の活性化」が何を指しているのか、日々考え続けながら活動している。そのようななかで出てきた答えの一つが、今回のイベントであった。私たちのおこなう活動は、「今」、助けを必要としている人々に対しておこなう、直接的な支援ではないかもしれない。しかし私たちは、今回のようなイベントを通して、明治学院大学で学んだ時間やその記憶が、明治学院大学を好きになってもらうためには必要不可欠であり、そういった地道な場づくりの先に、大学の活性化があると考えている。私たちは、今後も継続して、普段の大学生活では学ぶ機会のないテーマで企画を作り、学生に届けていきたいと考えている。

(学生メンバー 法学部政治学科)